

• 会報第10号の発行によせて •

今回の作家紹介は昨年、京都市美術館別館で開催された日本・アメリカ国際版画展の受賞者である長嶺斉氏(リトグラフ)と坪山由起氏(銅版画)です。また、山本桂右氏のアメリカ研修の滞在記(後編)を伺いました。

それぞれ大変興味深い内容です。ごゆっくりとお読み下さい。



◆Nagamine Hitoshi

◆Tsuboyama Yuki

■作家紹介 長嶺 斎・坪山 由起

■アメリカ研修報告 一後編一 山本 桂右

■版画京都展実行委員会 活動報告

■掲示板

KYOTO版画2009

Nippon's Association of Printmakers

Q2：ご自身の作品の、テーマやコンセプト、最も大事だと考えている事を教えてください。生まれて、生きて、死ぬ。命の連鎖のうつろいの中に見え隠れする存在、現象、ひとの想いの本質に向き合う事。制作は美しさの発見でありたいと願っています。

Q3：銅版画の技法は、ご自身の表現にとって、どのような役割を担っていると思しますか？不要なものをそぎ落とす事、強弱濃淡、エッジの効いた線、黒の美しさは銅版が必須です。

Q4：お好きな作家は誰ですか？その理由もお聞かせください。

杉本博司。劇場シリーズ、海景シリーズ、東京大学所蔵の模型シリーズの写真群は五感を超えてその美しさに圧倒されます。

作品／表紙・ゆふぐれ／七〇×五〇センチ／エッチング、アクアチント／一〇〇九／鬼火／七〇×五〇センチ／ソフトグランドエッティング／一〇〇九

Q6..今後の夢をお聞かせください。



銅版画 坪山 由起

1981年成安女子短期大学卒業/卒業後、白虎社にて踊り手として舞台活動(7年) /'90銅版画工房アトリエ凹凸所属 /'92 番画廊個展(以後10回) /第4回ミヤコ版画賞展都賞 /'96 第6回ミヤコ版画賞展大賞 /'97 都画廊個展 /'98 第12回現代版画コンクール展優秀賞 /ガレリア・グラフィカbis個展 /'99 第1回山本鼎版画大賞展 /'02 第5回高知国際版画トリエンナーレ展 /'08 京都版画2008日本・アメリカ国際版画展奨励賞
その他企画展、グループ展多数

Q5…受賞者展の感想をお聞かせください。
平安画廊への想いにつきます。学生の頃から
通つた平安画廊での最初で最後の個展となり
ました。平安画廊がなくなつてしまふ事のさ
みしさと、今まで数限りない版画家へのご尽
力へ感謝します。

A photograph of a studio space, likely a printmaking or mixed media workshop. The room features red brick walls and a large window on the right side. On the left, there's a workbench covered with various art supplies, including a red hairdryer, containers, and a small whiteboard. A yellow cardboard box labeled "FLAMMABLE KEEP FIRE AWAY" sits on the floor near the center. In the foreground, a large industrial-style printing press is positioned on a blue mat. A wooden stool stands in front of the press. The ceiling has large metal ducts and fluorescent lighting.

て頂いたのですが、アメリカ人の夫、日本人の妻、高校生の息子の三人で、上に一人の子供がいますが今は離れて暮らしています。一〇月二八日に、彫刻家でワシントンDCに住んでいるご夫婦の友人がハロウインパーティーを行うというので同行させてもらいました。何かに仮装しなければ参加資格が無いとの事で、ご主人はパジャマ姿で星条旗を背負い、奥さんは海賊に、私はご主人の提案で北朝鮮のキム、ジョンイル総書記に変装させられました。その頃、北朝鮮の核実験のニュースがアメリカで話題になっていたからです。会場に着いてみるとフランケンシュタインや魔法使いの老婆、モンスター等に仮装した人たちが、陽気に呑んだり騒いだりしていて、なんともいえない光景でした。芸術家のパーティーラし

んにも再会しました。九月に訪問したときは日曜日で誰も作業していなかつたのですがその時は平日だったので大勢の人々が作業をしていて、いろいろ質問もでき大変勉強になりました。その後、島野さんが教鞭をとるニューメキシコ大学の版画部門と「ユーランド」という別の版画工房を見学させてもらい、翌日朝の飛行機に乗り二月三日の夕刻、無事日本に戻つきました。

今改めて振り返つてみると、本当に多くの人々に助けられて有意義な研修がおくことができたと感謝の気持ちを新たにしています。

友人などが集まり、七面鳥、グランベリーソース、パンプキンパイなど、たくさんの伝統的な料理が並びました。

いてい子供の数メートル後ろには両親がいて笑いながらこちらに手を振っています。話には聞いていたけれど実際に見たのはもちろん初めてで、実に平和的な風習だなと思いました。余談になりますが、このハロウインの風習は私には日本の仏教における施餓鬼供養を思い起させます。施餓鬼は今の日本では形骸化してしまい、単にお坊さんが先祖供養のためにお経を上げるだけの儀式になっていますが、Trick=餓鬼の悪事、Treat=施しと解釈するとハロウイン自体がまさに施餓鬼供養そのものに思えます。また、ハロウインと良く似た風習は日本の古い集落にも見られるようなので、何か歴史的に共通の根っこがあるのかも…と想像しています。

人や、動物、植物など、生命あるものたちを、ある一定の距離関係に位置づけ、その関わりの中で生じる心理的描写や物の象徴性を通じての寓話（物語）を紡ぎだす事を意図しつつ制作しています。日頃から、制作の動機づけとなるイメージを触発させてくれるモチーフとの出会いを大切にしています。

Q1 版画制作を始めたきっかけを教えてください。

リトグラフを初めて学んだのは、大学の授業の時でした。専攻が油彩画だった事もあり、卒業後もしばらくは、油彩を続けていましたが、しばらく油彩が描けなくなつた時期があり、その時に、表現の方向性を変えてみようと思い、取り組み始めたのがきっかけです。

Q2 ご自身の作品の、テーマやコンセプト、最も大事だと考えている事を教えてください。

Q4.. お好きな作家は誰ですか？その理由もお聞かせください。

一八〇〜一九世紀頃のボタニカルアート（主にリトグラフ）や一七〇〜一八世紀のフランドル派の油彩など。西洋の古典的で存在感のあるものが割りと好きです。



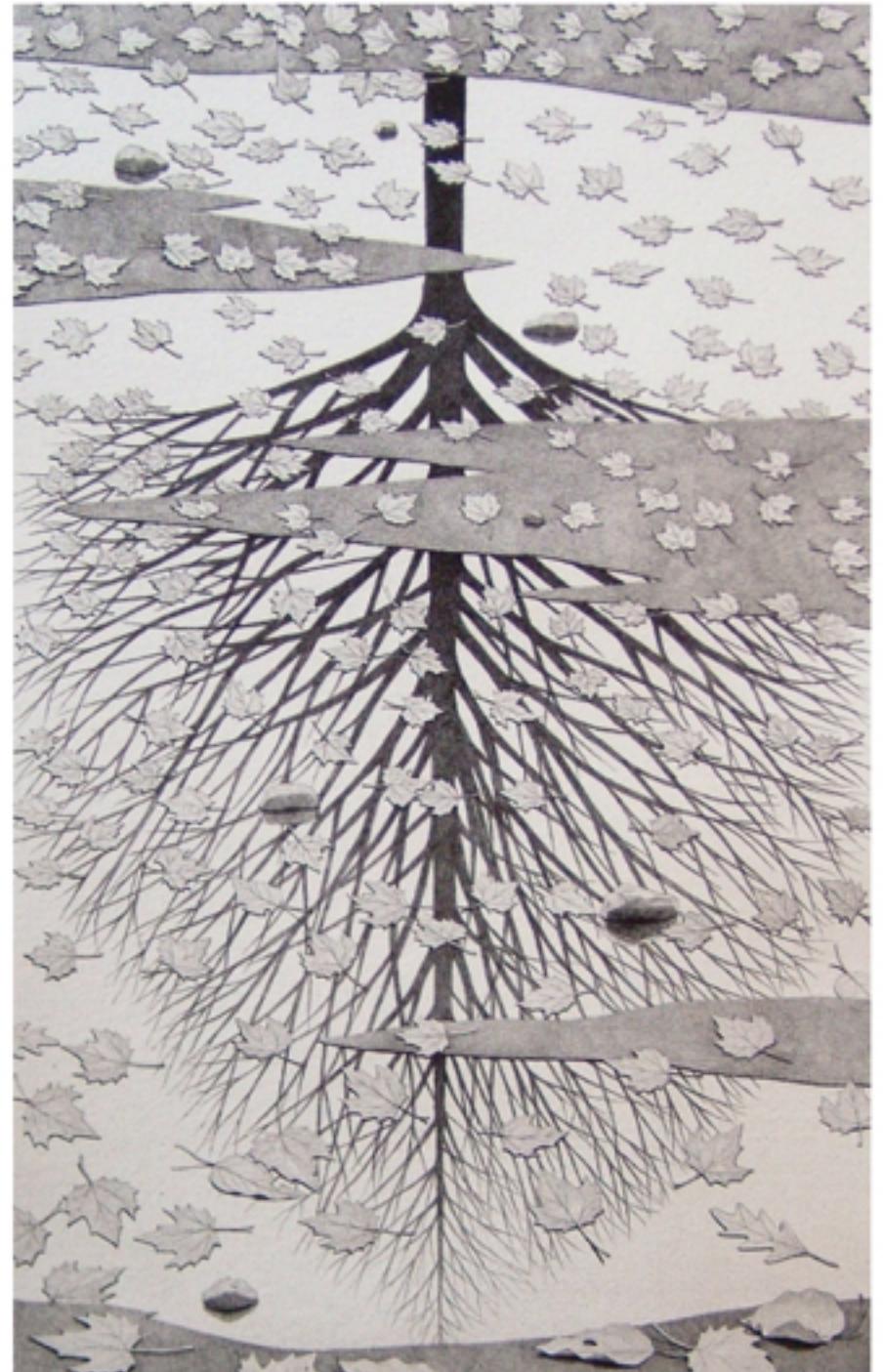
リトグラフ

長嶺齋

1961年沖縄県那覇市生まれ/'89愛知県立芸術大学大学院美術研究科油画専攻修了/'91第2回フィラン大賞展特別賞(東京/アート・ミュージアム・ギンザ) /'95沖縄戦後美術の流れシリーズ1(浦添市美術館) /'97第23回現代童画展JAL賞/'01第75回国展版画部門国画賞/第35回文化庁主催現代美術選抜展招待/'08「日本・アメリカ国際版画展」奨励賞 その他、個展・グループ展多数
現在、日本美術家連盟会員・版画工房コントルレポワン主宰
<http://www.con-studio.com>

KYOTO 版画 2009

アメリカ研修報告 —後編—



リトグラフ 山本 桂右

山本氏は2007年9月15日から12月3日まで文化庁の芸術家海外研修員としてアメリカ、ニューメキシコ州タマリンド・インスティチュートとメリーランド州ピラミッド・アトランティック・アートセンターへ研修に行っておられました。

A photograph of a woman with blonde hair, wearing a patterned blouse and a dark cardigan, sitting at a wooden desk in an office. She is smiling and looking towards the camera. The desk is cluttered with papers, a computer monitor, a keyboard, a telephone, and other office supplies. Behind her are large windows that offer a view of a city street with buildings and trees. To her left, there is a painting on the wall and a potted plant. To her right, there is a lamp and more office equipment. The overall atmosphere is that of a busy, creative workspace.

ピラニツド・アトランティックでは自作品のスライドレクチャーを行うことをヘレンさんから求められていたのでシルバースプリングに来て最初の一月くらいは毎晩食事の後、そのための原稿を考えていきました。私の下手くそな英語で出来るだろうかと不安でしたが「下手でも自分の言葉で言えばちゃんと伝わりますよ。」とホストファミリーの方に励まされ、またいろいろな人に文章を添削してもらつて何とかまとめました。

当日は大勢の人が来いろいろ質問されたらどうしよう、と心配しましたが実際に集まつたのは一〇人ほどで、ほとんど顔見知りの人たちばかりで安心しました。

またコーコラン美術大学のリン・シュレス先生から私を授業で学生に紹介したいという連絡があり翌週、大学へ伺いました。このときは学生三〇人くらいの前でスライドレクチャーを行い、その後、日本人学生の通訳で学生や先生との質疑応答になりました。「あなたの作品

の?」「あなたはお金のために絵を描いているの?」とか、いろいろ突っ込んだ質問を受け返答に窮した場面もありましたがこれも貴重な体験でした。

私のアメリカ滞在中にはハロウインとサンクスギビングというアメリカでは重要な年中行事があり、私はアメリカ人的一般家庭にホームステイさせて頂いたおかげで食事の、心配も無く、

それらのアメリカ伝統文化にも触れることが出来ました。

の?」「あなたはお金のために絵を描いているの?」とか、いろいろ突っ込んだ質問を受け返答に窮した場面もありましたがこれも貴重な体験でした。

くサルバドール・ダリやフリーダ・カーロに変装している人もいました。

一〇月三一日にはかぼちゃの中身をくりぬき、怖い顔を作つて内側にろうそくを立て提灯のようにして玄関の前に置いておくと、夜いろいろな扮装をした近所の小さな子供達が次々とやつてきて “Trick or Treat !” (与えてくれなければ悪い事をするぞ) と言つてキャンディーなどを要求するとじうイベントがあります。たいてい子供の数メートル後ろには両親がいて笑いながらこちらに手を振っています。話には

版画京都展実行委員会 活動報告



○KYOTO版画2009新鋭展○

KYOTO版画2009新鋭展は1月24日(土)～2月8日(日)、ART FORUM JARFO(京都・東山)にて開催されました。出品作家の中から韓国美術展への参加は第一席に藤原杏菜さん、第二席に牧野浩紀さんが選抜されました。おめでとうございます!

2008年度の新会員は遠方の方が多かったのですが、参加人数が多く和やかにオープニングパーティがスタートしました。まず自己紹介をはじめ、出品作家とご来場の方との意見交換が行われ、お酒や食事を囲みながらの楽しい雰囲気が印象的でした。

会場内は一人あたり各3点程ゆとりを持って展示されており、作家の世界観にじっくり入れる空間でしたので、歓談の輪を少し抜けて一人でゆっくり鑑賞される方もいらっしゃいました。

会報担当:三上



○総会,作品研究会○

前回の総会は2月14日(土)、京都会館にて行いました。新役員と実行委員会の案件を出席者全員で承認、2009年、10年度委員会の事業計画については、主にアメリカ巡回展の件、新鋭展の展覧会報告、来年予定の日本・ポーランド国際版画展について話し合いました。

2009年4月1日より事務局が移転しましたので、お間違えのないようよろしくお願ひいたします。

作品研究会では約10名が作品を持参しました。4月に東京で開催される版画展(東京都美術館)に向けて準備をしている方が多かったので、作品講評は昨夏の研究会よりも的確かつ具体的なアドバイスが出て、有意義な研究会となりました。

今回の総会は出席人数がいつもより少人数でした。作家同士の楽しい交流の場ですので皆様のご参加お待ちしております! 会報担当:三上

○ホームページ リニューアル○

4月3日より版画京都展実行委員会のHPがリニューアルしました。作家紹介では各会員の作品を見る事が出来ます。また、版画京都展実行委員会の沿革・概要や今まで開催した国際展の紹介、出版物の案内など、さらに充実した内容となりましたので是非、ご覧下さい。

ウェブサイト担当:柴田

<http://www.kyo-pec.org>



掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

●坪山由起
<個展>
会期: 2009年11月23日(祝)～11月28日(土)
場所: 番画廊
〒530-0047 大阪市北区西天満2-8-1
大江ビル1階
TEL: 06-6362-7057
TEL: 075-231-0694

●豊岡緑
<第94回二科展>
会期: 2009年9月2日～9月14日
場所: 東京・国立新美術館
東京都港区六本木7-22-2
TEL: 03-5777-8600

<第94回二科大阪展>
会期: 11月3日～11月15日
場所: 大阪市立天王寺美術館
大阪市天王寺区茶臼山1-82
TEL: 06-6771-4874

●林葉子
<林葉子銅版画展>
会期: 2009年11月23日(月)～11月26日(土)
11:00a.m.～7:00p.m.(土曜5:00p.m.)
場所: ギャラリー白3
〒530-0047 大阪市北区西天満4-3-3 星光ビル
TEL: 06-6363-0493

●山本桂右
<太陽展(油彩)>
会期: 2009年5月14日～5月27日
場所: 日動画廊
〒104-0061 東京都中央区銀座5-3-16
TEL: 03-3571-2553

<小立野会展(油彩)>
会期: 2009年7月21日～7月26日
場所: ギャラリーヒルゲート2F
〒604-8081 京都市中京区寺町通三条上ル西側
TEL: 075-231-3702

<山本桂右展(油彩)>
会期: 2009年8月18日～8月24日
場所: そごう神戸店 美術画廊
〒651-8511 神戸市中央区小野柄通8-1-8
(三宮駅前)
TEL: 078-221-4181

<山本桂右展(油彩と版画)>
会期: 2009年10月16日～10月25日
場所: 樹樹画廊
〒454-0807 名古屋市中川区愛知町42-1
TEL: 052-351-6867

編集後記

会報担当は川端、堤、三上となりました。皆様、宜しくお願い申し上げます。また、内容の充実の為、公募展情報を割愛させて頂きました。公募展情報は各美術系雑誌や公募展の紹介サイト『登竜門』(<http://compe.japandesign.ne.jp/>) などでお探し下さい。それでは、今後とも宜しくお願い致します。

発行: 版画京都展実行委員会 問い合わせ先(事務局): 075-956-6910

